

第11回多摩市自治推進委員会 要点記録

平成26年7月25日（金） 18:30～20:10

多摩市役所3階 特別会議室

出席者：安藤委員長、松本副委員長、小嶋委員、横山委員、田中委員

事務局：企画政策部長、企画課長、企画課主査、企画課主事

審議：今後の検討テーマについて

□開会

事務局

配付資料について事務局から説明を行った。

委員長

自治推進委員会では、1回から10回まで色々な角度から議論を重ねてきた。特に前回、前々回は、4つのカテゴリー（高齢者、コミュニティ、子育て、教育）に分けて、事例検討を行った。

資料1には、市民の様々な活動から考えられるキーワード、考え方が抜き出されている。今後、議論した部分で抜けていることや、資料中の分類が違う部分、言葉を付け加えたりする必要がある等、修正が必要となってくると思う。実際にキーワードを元にしながらか自治推進の考え方をまとめるにあたり、現場の方にお聞きするなどの作業が必要となってくることもあると思うので、キーワードの確認をし議論をしたい。

事務局

資料1「自治推進に関するキーワード（第1回～第10回）」の内容を確認した。

委員長

キーワード、事例、考え方、立場等を考慮して大事なポイントがまとめられている。自治に必要な意見・感想等はあるか。

副委員長

本委員会で、最初の頃に話していたこととして、共有財産と私有財産の話がある。例えば、空き家は私有財産であり、行政の介入は難しく、周辺住民が繋がりを作ることで解決していくような事例があったと思う。共有財産・私有財産とどのように付き合うかは、今後取りまとめの際に入れていったほうが良いテーマである。行政においてプライバシーが重視されている中で、広義・狭義に悪い影響を及ぼす可能性がある場合に、市民同士で解決していく仕組みが自治で重要な機能であると思う。

委員長

空き家が日本全体で増加している。空き家を特別養護老人ホームではなく、地域の方が住む養護老人ホームに転換できないかとの政策が厚生労働省でも出てきている。私有財産を公共的なものに転換していく考えがある一方、現在の手法ではそのまま買い取る考えである。私有地を保有している人は売買を望むだろうが、行政側に財政的な余裕はない。

今後、私有財産をどのように公共的な財産に転換していくかが焦点となってくるだろう。

現在の介護保険において、介護度が高いことは動けないことであり、認知症が進んでも介護度は低く介護認定は受けられない。仕組みから外れた人々を地域でどのように支えあう

か、どのように見守っていくかは大きな問題である。

委員 諏訪 2 丁目建替団地では、他の団地に例がない部分として、ゲストルームやパーティールームの収入が管理組合や自治会の予算に計上されている。

委員長 ゲストルームに対して自治会員が出資することに反対があるケースも想定できる。諏訪団地の独自性だと思う。行政にすべてを頼るのではなく、団地・自治会でできる範囲を考え、収入源を生み出すアイデアを出すような運営方法が良い。

委員 自治とはなにかと考えると、人と人が出会うことから始まって、関わって、気づきあうことから始まると感じた。高齢で一人住まいの方への関わりの難しさは感じる。自治会はもっとも関わりやすいと思う。民生委員等に比べ、より身近である点が良いと思う。

委員長 民生委員は欠員もあり成り手も少ない。担当範囲も広いので、頻繁に訪問することは難しい。サロンがあればその情報を流していると思うが、個々の人とサロンとのマッチングも難しい。より身近にあれば行きやすいのではないだろうか。

委員 毎週マージャンをしている活動もあるようだ。

委員長 マージャンは高齢の女性に最近人気である。ビーズ編みやお茶飲みなど日常的に活動できる場所があるといい。

近隣では、武蔵野市がテンミリオンハウスのひとつでマージャン等をやっている場所があり盛況である。テンミリオンハウスは元民家で武蔵野市の所有物。私有財産の遺贈を受け公共施設としており、地域の N P O が運営している。

また、資料 1 に一人で気楽に入れる公共施設というキーワードがあったが、多摩市の公共施設は一人で気軽に行けるような環境、雰囲気なのか。

事務局 図書館やコミュニティセンター、公民館等、入りやすい場所はある。

委員長 武蔵野プレイスは、図書館、青少年、男女参画の共同の場所である。図書館に喫茶室があって読書がしやすい環境、また若者が楽器を持ち込んで演奏できる場所もあり、誰でも入りやすい環境がある。考え方として、様々な世代の人が自由に過ごせる空間をどのように地域につくり繋げていくかが必要ではないだろうか。運営方法等は調べてみると良いかもしれない。

委員 気軽に話しができるコーナーが欲しい。

副委員長 資料 1 は、市民と行政と協働で非常にオーソドックスなまとめ方ではあるが、現実的にどのように広げていくかと考えた時、“個人”からどのように自治に関わっていくかという視点

からまとめていくのが良いと思う。きっかけ、広がり等、自治に繋がったとなったプロセスがあり、プロセスの中で自治会や行政が個人を応援できる体制や場所があれば、自治を推進していく個人が増えていくと思う。どのような視点から自治推進の考え方をまとめていくかを定めた方が良いのではないか。

委員長 一人の人間の出会いをストーリーの形で書くといいのではないか。

副委員長 架空の世界を想定し、特に自治に興味が無かった人物が何かに出会って変わっていくというプロセスをストーリーで書き、関わってくる組織や資源は何なのかということを確認にしていくことで、市民の人が読みやすくなるのではないか。

委員 話をしたいとき、人が集まる場所で話ができる雰囲気、案内する看板等があるといい。

委員長 コンシェルジュのような人がいるといいのかもしれない。公民館や図書館等で話すことを目的としている空間があるといいのではないか。

高齢者の多くが公民館や図書館で新聞・雑誌を読みに来るが、実際は、何を目的としているかは明確ではない。地域の周りの人とどのように関わるのが問題である。

委員長 喫茶店は年齢差を越えて集まる。最近では、喫茶店をオフィス代わりに使う人もいる。仕事をするのは静かな場所の方がいいとも思うが、ならないのはなぜかがカギである。

委員 子どもが自分の部屋があるのに、リビングで勉強したり、外の喫茶店などで参考書を広げて勉強している子もいる。人が周りにいることに安心感があるのかもしれない。

副委員長 女性が一人になりたいとき、カフェに行く。真っ白い部屋で机だけ置いてある整然とした場所では考えることができない。安心感に加え周りに触発されるという側面もあるのではないか。市民自治においても、必ずしも直接的な刺激でなくても活動に関わることへの興味が湧くのではないか。

委員長 場作り、人の繋がり、公共的な場所でも個人が地域活動に関わっていこうと考えるプロセスを支える環境設定が重要である。

副委員長 きっかけを作るのは個人でも行政でもいいと思う。立場や組織の問題ではなく、象徴的に、個人の思いや考えを気付かせたり、コントロールする人、場所、組織を描いて制度としての自治を示すことは市民にとって分かりやすいのではないか。

委員長 キーワードをストーリーで作成し、個人が活動に参加したきっかけやキーパーソンの存在、助成金等、ヒアリングしたものを入れ込んでいく。キーワードを項目ごとに分類して、具体的な事例をもとにストーリーを作ることができればいいと思う。個から地域へというコ

ンセプトでストーリーを作り、どのような出会いがあったのかを明確にしていくといいのではないか。

副委員長 自治推進委員の方のストーリーを取り上げるといいのではないか。イベントに参加しても、関わりを深く持つ人ばかりではない。なぜ関わりを持っていったのかということは興味深い。

委員長 個から地域、個から活動へといった一連の流れが自治であり、市民、行政や自治会等の社会資源の提示、必要な関わりを確保をストーリーとして描けばいい。個が点ならば、どこかに繋がったことが線で、活動が広がったことが面で、さらに世代等の時間軸が絡んでくるのが自治のイメージかと思う。

副委員長 自治という概念は、明確な定義からは見ることはできない。政治や法律という視点から見るとダイナミックな視点は生まれえないのではないだろうか。

委員長 様々な関わりの中で人やコミュニティが変化していく。関わる部分は様々であり、団体、人等との全体的な繋がりが見えてこそその自治である。

まとめる際には、個人を中心とした事例を集めていくことで、自治は見えてくるのではないだろうか。ストーリー性的な項目を考えて、今までの出してきた事例に加えて新しい事例を実際にヒアリングし、厚みのあるものにしていくとよいのではないか。

事務局 個から地域へという点で考えると、プロセス中のきっかけとなる組織や出会い等といった要素を取り出し、ストーリーとはいかなくてもスゴロクや人生ゲームのような形でまとめていけるのではないか。

副委員長 資料1のキーワードを再配置することになると思う。

委員長 ストーリー性のあるものでキーワードを散りばめていき、行政ができていない仕組みを明確にしていくことで自治を推進するときに考えるきっかけとなる。

事例に関しては、文献だけでなく実際にヒアリングに行くなり、来ていただくなりした方がいい。

事務局 それでは、本日の議論についてはここまでとしたい。次回以降、これまでの議論を少し整理した上で事例検討していきたい。次回の開催日は、9月12日金曜日とする。これで第11回委員会を閉会する。

□閉会